

福山大学 経済学部 経済学科 2020年度 自己点検・評価書

基準1. 理念・目的	
領域: 使命・目的、教育目的	
2020年度	経済学部 経済学科
中長期計画	<p>大学の建学の理念や教育理念に基づき、経済学部の目的の設定は完了している。</p> <p>経済学部の目的(経済学部規則第2条2)に次のように定められている。 経済学部は、経済学・経営学の両方の視座から社会を鳥瞰できる学生を育てるとともに、企業や組織体を牽引するような潜在力を育む。 経済学科は、広い視野と、実践能力を持ち、経済や金融そしてスポーツ産業とのありようやあり方に十分な理解を有する人材を養成する。</p> <p>これは、2012、2013年に議論され、2014年度から経済学部の目的として、経済学部規則に示した。</p>
2020年度	経済学部 経済学科
中点検項目	1-1. 大学、学部、学科、研究センター及び委員会等は、それぞれの使命・目的及び教育目的を設定していますか。
点検項目	① その意味・内容は具体的かつ明確ですか。
現状説明	<p>①理念・目的は、経済学部規則第2条の2に明記している。</p> <p>②建学の理念・目的に基づいて経済学部の理念・目的を設けている。すなわち、経済学部は、経済学・経営学の両方の視座から社会を鳥瞰できる学生を育てるとともに、企業や組織体をけん引するような潜在力を育む。(経済学部規則第2条の2)</p> <p>③即戦力として活躍できるように資格取得目標を設定している。</p>
年度目標	現状を維持
年度報告	目的に基づいて学科運営を行った。 コロナ禍にも拘らず、ビジネス検定、日商簿記検定などで熱心な取り組みを行い成果があり、現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	<p>①2020年度 学生便覧</p> <p>②経済学科の教育目的とディプロマポリシー</p> <p>③学長室ブログ</p> <p>④2020年度ビジネス検定実績・日商簿記検定実績</p>
点検項目	② 個性・特色を明示していますか。
現状説明	<p>学部のアドミッション・ポリシーとミッションに基づく学科・コースのディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを設定し、個性化への対応を行っている。</p> <p>2014年度からの新コースが新しいカリキュラムのもとで整備し、経済学部の多様化・個性化の制度的準備は完了した。</p> <p>2014年4月に経済学部は学科コースの再編を行った。 経済学科…経済総合コース、金融経済コース、スポーツマネジメントコースを設置 2017年度から、スポーツマネジメントコースのカリキュラムを強化した。</p>
年度目標	スポーツマネジメントコースの新カリキュラムを機能させる努力を継続すると同時に改善の余地を検討する。
年度報告	2020年度1名の新規教員を採用し、学科の個性を更に発揮するよう2020年度入試も学科別方式を継続した。また、スポーツマネジメントコースの新カリキュラムを2017年度から継続して実施して来たが、改善の必要性が有り、変更を計画した。
達成度	S
改善課題	卒業時の学生質保証に向けたカリキュラム編成の改善と充実化
根拠資料	<p>①2020年度 学生便覧</p> <p>②2020年度 経済学部教授会議事録</p> <p>③2020年度ビジネス検定実績・日商簿記検定実績</p>
次年度の課題と改善の方策	学生の質保証に向けた新カリキュラムの実施と旧カリキュラムのスムーズな段階的移行の実施を課題とし、学科内の3コースにおける主要カリキュラムの充実化を他の学科教員との協力を基に教務委員会を中心に実施する。
点検項目	③ 社会の要請や背景の変化について検討していますか。
現状説明	第5G時代に突入したものの令和不況が叫ばれる昨今、社会の要請や背景の変化は、経済学部・経済学科にとって極めて重要であり、常に検討している。卒業生の総合力という観点を意識している。
年度目標	現状を維持
年度報告	コロナ禍で従来の企業懇談会は実施できてないが、昨年度の出席者に対してメールにより関係を深めた。また、企業面談には学生の積極的参加を促し、企業の求める人材に関する情報収集を行った。
達成度	A

改善課題	現状を維持した。
根拠資料	①企業懇談会出席者へメール発信記録（就職課報告書） ②2020年度 学生便覧 ③2020年度 経済学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
2020年度 経済学部 経済学科	
中点検項目	1-2. 使命・目的及び教育目的の反映
点検項目	① 使命・目的及び教育目的に対し、教職員の理解と支持は得られていますか。
現状説明	教職員の理解と支持は得られている。
年度目標	現状を維持
年度報告	（学部に限らず） コロナ禍で企業懇談会は実施できていないが、昨年度の出席者に対してメールにより関係を深めた。また学部内で資格取得委員会などを組織して教職員の理解、支持を得るよう取り
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①企業懇談会出席者へメール発信記録（就職課報告書） ②2020年度 経済学部諸委員会名簿 ③2020年度 経済学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学内外へ公表し、周知していますか。
現状説明	周知に関しては、学生及び全教職員へ学生便覧において公表している。学生便覧を毎年配布している。また、福山大学学報を通して、学生、教職員、保証人等へ周知・徹底を図っている。その他ホームページ、刊行物、配布資料などを通して公表している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①資格取得についての学長室ブログ https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 中長期的計画に反映していますか。
現状説明	毎年、学部・学科の長期ビジョンを議論する際に、使命・目的、教育目的を考慮、反映している。
年度目標	現状を維持
年度報告	学修効果を高めるようカリキュラムの見直しを行った。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2021年度経済学部カリキュラム改定（第10回評議会提出資料）
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 三つのポリシーに反映していますか。
現状説明	使命・目的、教育目的は、三つのポリシーに反映している。
年度目標	現状を維持
年度報告	3ポリシーの変更はないが、学修効果を高めるようカリキュラムの見直しを行った。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2021年度経済学部（経済学科）カリキュラム改定
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教育研究組織の構成との整合性は取れていますか。
現状説明	経済学部 経済学科の教育研究組織の構成は、使命・目的、教育目的を常に意識したものとなっている。しかし、学生数が若干多く各教員の過負担があり、改善を要する。
年度目標	現状を維持
年度報告	カリキュラムの見直しは、教務委員、学科会議、学科間調整、運営委員会、教授会で十分議論した。運営委員会は、各学科を代表する学科長が参加しているので構成上は整合性には問題がない。しかし、教育研究組織としての教員の過負担の改善は行われていない。
達成度	A
改善課題	教育研究組織としての教員の過負担の改善
根拠資料	①2021年度経済学部カリキュラム改定（第10回評議会提出資料） ②第13回経済学部教授会議事録

次年度の課題と改善の方策	教育研究組織として成果を得るために教員の過負担の改善を計る。
2020年度	経済学部 経済学科
基準2. 学生	
領域:	学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応
2020年度	経済学部 経済学科
中長期計画	<p>中長期計画は、これまでの「2012年度、2013年度年度計画」と2014年度の「経済学部構想」に基づく。</p> <p>教育内容や教育プロセスの設計は、2014年度に提示した学部の新しいミッション、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーに基づき、そして、それらを具体化した新カリキュラムに従って、計画する。</p> <p>具体的には、学部横断的な必修科目の設定、学科に固有の選択必修科目の設定、地域に根ざす経済・経営教育をしようとする備後経済コースの設計、そして、金融市場を教育の核とする金融経済コースの設計等によっている。これら設計の遂行が、目的通りに実施しているかについて、自己点検と評価をし、PDCA サイクルの確立を目指す。さらに、設計自体に適宜、必要な補正を加えていく。</p> <p>中目標 学科の定員充足を維持する</p> <p>小目標 オープンキャンパスの充実を図る 学科活動の見える化に取り組む 在学生の満足度向上を推進する</p>
2020年度	経済学部 経済学科
中点検項目	2-1. 学生の受入れ
点検項目	① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と学内外への周知を行っていますか。
現状説明	アドミッション・ポリシーは教育目的を反映している。 学生便覧への掲載により、学内外への周知を行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2020年度 学生便覧 21P ②経済学部ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることを検証し、学生受入れの改善に生かしていますか。
現状説明	アドミッション・ポリシーが不適切な場合には、留年、退学が多くなるはずであるが、現状ではそのような現象と結びついていない。したがって適切であると判断できる。2020年度の留年率は、2019年度と比べて、全学年で下落した。しかも、2019年度、2018年度、2017年度、2016年度よりも低い。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みが継続された。 第1回学部教授会で学部長から、アドミッション・ポリシーに沿って受験生確保に万全を期すよう要請があった。経済学科は定員確保ができた。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2020年度第1回経済学部教授会議事録 ②経済学科改革案 ③経済学科FD報告
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 入学生受入れ状況を昨年度及び今年度について検証し、その増減の原因を分析していますか。
現状説明	経済学科は2016年度以降20年度まで入学定員を上回る入学生を受け入れてきた。これは学科別入試にしたことと教員のオープンキャンパス等でのアピールや学生指導の努力の成果であった。しかしながら21年度は入学定員を下回った。原因を分析し22年度入試につなげるべく報告書をまとめた。
年度目標	現状を維持
年度報告	運営委員会で検証を実施した。 現状を維持し、2021年度入試では6年ぶりに入学定員を下回った。 受け入れた学生の質は資料が無いので不明。

達成度	A
改善課題	入学定員が20名増えることに対応するとともに質の高い学生の確保と指導
根拠資料	①経済学科改革案 ②経済学科FD報告 ③入試広報室データ
次年度の課題と改善の方策	質の高い学生の受け入れに向けて見直された推薦枠の充実化と指導を行う。
点検項目	㊦ 入学定員に沿った適切な学生受入数を維持できていますか。できていない場合、どのような対策を実施していますか。
現状説明	経済学科は入学定員を20名増加したにもかかわらず、20年度には入学定員を上回ったものの21年度は充足率97.1%とわずかに定員を下回った。人数的には適切なレベルである。
年度目標	現状を維持
年度報告	学科の魅力発信に努めるとともに、入試部門と連携し入試別、合格者数などに検討を加えた。経済学科は、定員確保できた。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①経済学科改革案 ②入試広報室の合格者データ
次年度の課題と改善の方策	

2020年度 経済学部 経済学科

中点検項目	2-2. 学修支援
点検項目	① 学修体制の整備のため、どのような教員と職員等の間でどのような協働をしていますか。また、それを学内外に公表し周知していますか。
現状説明	ゼミの指導教員や担任、副担任による学修支援がある。また、基礎科目担当教員、全学の学修支援室（学科教員も協力している）による学修支援もある。これらは学生はもちろん教職員にも周知されている。社会にもホームページ等を通じて公開している。
年度目標	現状を維持
年度報告	（学部基準） 現状の取り組みを継続した。 コロナ禍で大半がオンラインによる授業であったが、教員、職員等の関係者で連携を図り円滑に実施し教育効果を高めた。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①ビジネス検定受験実績データ ②経済学部ホームページブログ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学修支援の充実のために、TA(Teaching Assistant)等を有効に活用していますか。
現状説明	必修のマクロ経済学とミクロ経済学のTA導入を2018年度から開始し、有効に活用している。今後も継続して実施する。
年度目標	現状を維持し、マクロ経済学とミクロ経済学のTA導入を実施する。
年度報告	現状の取り組みを継続した。実施にあたってはTA等活用計画書に基づいて適正に取り組んだ。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①経済学部ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/ ②TA等の事前研修に関する基本方針
次年度の課題と改善の方策	

2020年度 経済学部 経済学科

中点検項目	2-3. キャリア支援
点検項目	① 教育課程内外を通じて社会的・職業的自立に関するキャリア形成支援体制を整備していますか。
現状説明	経済学部には、各学年毎にキャリア科目が準備してあり、キャリア形成支援委員を設置して系統的にキャリア形成支援をできるように運営している。 1年次生対象のキャリアデザインの科目と教養ゼミの一部でビジネス能力検定対策講座があり、キャリア形成に役立っている。 学生の就職は学生本人の意思が重要で、それを担任がサポートをする。 学生の就職状況について毎月末に内定報告を就職委員が取りまとめて就職課へ報告している。それを見ながら就職課が就職指導を実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。

達成度	A
改善課題	
根拠資料	①経済学部ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/ ②資格取得支援委員会 ③TA等の事前研修に関する基本方針
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	②卒業生の進路に関する過去3年間にわたる資料を収集し、検証していますか。
現状説明	毎年、就職課からデータを入手して、検証している。 就職率はこのところ高率を維持している。（2020年3月15日現在で100%）
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。 コロナ禍で前年度の水準を確保した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2017年度以降の就職率データ ②全学教授会（資料）2020年度学科別進路状況
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③資格取得やインターンシップを支援する体制を整備していますか。
現状説明	①資格取得支援センター運営委員会と連携して、資格取得を支援している。 ②ビジネス能力検定対策講座はキャリアデザインの科目と教養ゼミの一部を活用する。 ③証券外務員とMOS検定のためには特別対策講座を企画する。 ④インターンシップについては、キャリア形成支援委員会と密接に連携している。
年度目標	現状を維持
年度報告	（学部に準ずる。） コロナ禍でMOS、証券外務員講座は3密をさけるため実施できなかった。ビジネス検定、日商簿記は限られた条件の下で、遠隔授業、個別指導を通して成果を上げることができた。 インターンシップについては、各種イベント等に参加するよう支援した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①経済学部ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/ ②資格検定、インターンシップ実績データ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④就職指導を適切に行い、就職の質及び内定率の向上に取り組んでいますか。
現状説明	①進路選択は第一に学生の意思を尊重する ②担任が相談する場合本人の適性等をアドバイスする ③学部就職委員は内定学生を就職課に報告する ④就職課は未内定学生を重点的にケアしている ⑤インターンシップへの参加を推奨している
年度目標	就職の質と内定率向上に向けた努力を継続する。
年度報告	就職の質と内定率向上に向けた努力を継続した。 就職委員の主導により、学生に対してきめ細かい指導に努めた。 経済学科の高い就職率を維持できた。（2021年3月15日現在で100%）
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①経済学部ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/ ②全学教授会（資料）2020年度 学科別進路状況 ③2020年度大学要覧 112～114P
次年度の課題と改善の方策	
2020年度 経済学部 経済学科	
中点検項目	2-4. 学生サービス
点検項目	①学生生活の継続のための経済的支援は実施されていますか。
現状説明	（学部に準ずる。）①全学的には、日本学生支援機構の活用、留学生への学費等の支援を行なっている。 ②学部として、海外研修、海外インターンシップ、簿記検定試験等の資格取得への支援を行っている。受験者数の増大化傾向を見る限り、これら支援は適切に機能していると思わ
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。
達成度	A
改善課題	

根拠資料	①2020年度学生便覧 216P ②経済学部ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/ ③2020年度大学 111P
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 種々のハラスメントの発生防止に取り組んでいますか。
現状説明	①ハラスメントについての規定は整備している。 ②相談窓口を設置しており、担当者がおり、手続きの明確化している。 ③掲示板、ゼルコバや担任等により学生への案内をしている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度学生便覧 321P ②経済学部ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 課外活動(サークル活動、留学等の国際交流、社会貢献活動を含む)の活性化のために、どのような取り組みを行っていますか。
現状説明	経済学科の学生の多くはサークル活動に参加している。学部・学科との連携をとりながら、監督、部長、顧問など関係者がサークル活動の活発化に努めている。しかし、種々の事情で退部や休部する学生の心理的・学業的ケアが必要であり、組織的取り組みの必要性を確認している。 海外研修、海外留学のチャンスは豊富にあり、学生の積極的な参加を促している。 アクティブ・ラーニングの一環として、社会連携を行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。 課外活動、国際交流等の活性化に貢献した学生・団体（サッカー部）に対して、学生表彰規定に基づき表彰した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①経済学部ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/ ②2020年度学生表彰推薦書（在学生、卒業生）
次年度の課題と改善の方策	
2020年度 経済学部 経済学科	
中点検項目	2-5. 学修環境の整備
点検項目	① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理をどのように実施していますか。
現状説明	順次整備されているが、十分とは言えない。体育館や一部研究室でのWi-Fiの使用環境が不十分であり、ICT教育に支障がある。 留学生のための施設が十分ではない。 学生のためのアメニティーが貧弱である。討論しながら快適に自習できるような環境が必要である。また、学生がゼミ等のために資料をコピーする機器があまりない。トレーニング場の機器が故障していても修理や更新が行われていない。シャワールームも不潔で管理が不十分である。
年度目標	改善点を提案する。
年度報告	インフラ整備は進んでいない。検討委員会も設置出来ていない。 体育館や一部研究室でのWi-Fiの使用環境が不十分であり、ICT教育に支障がある。 留学生のための施設が十分ではない。 学生のためのアメニティーが貧弱である。討論しながら快適に自習できるような環境が必要である。また、学生がゼミ等のために資料をコピーする機器があまりない。トレーニング場の機器が故障していても修理や更新が行われていない。シャワールームも不潔で整備かつ管理が不十分である。
達成度	B
改善課題	学修に向けたインフラ整備の組織的改革の継続
根拠資料	①現地視察
次年度の課題と改善の方策	学修に向けたインフラ整備の組織的改革に向けた検討委員会の設置。取扱窓口の明確化。
点検項目	② ICT教室、実習・実験施設、図書館等を活用していますか。
現状説明	学部に関する設備（ブルームバーク、日経テレコム、FinancialQUESTなど）の設備整備方針は、経済学部のありようから見て適切である。 端末のある部屋を随時活用している。 図書館は教養ゼミ、3・4年の経済学演習で活用している。

年度目標	図書館利用促進対策の策定と実施 活用のための予算要求
年度報告	現状の取り組みを継続した。 図書館利用促進対策を実施した。 大型モニターの予算獲得ができた。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①経済学部 2021年度予算要求書 ②第28回経済学部教授会議事録 ③図書館利用促進対策（経済学部図書館運営委員）
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	③ 施設・整備のバリアフリー化やアメニティスペースの確保など、学生の利便性を高めるために、どのように取り組んでいますか。
現状説明	全学の方針にしたがって、行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①経済学部ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/ ②2020年度大学要覧 104P
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	④ 授業を行う学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理をしていますか。
現状説明	全学の方針にしたがって、行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①経済学部ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/ ②2020年度教務の手引き 191P
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	⑤ 施設・設備の管理において、防災・防火の観点から整備点検を行っていますか。 (学部に準ずる。)
現状説明	全学（学生委員会）の方針にしたがって、行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度 学生便覧 ②福山大学防火・防災管理規則
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	⑥ 施設内に保管している劇物・危険物の管理において、安全管理の観点から管理システムを整備していますか。
現状説明	劇物・危険物はない。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度学生便覧 232P
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	⑦ 学生及び教職員の安全確保のために、各部署に適切な安全管理教育の実施、災害時避難マニュアルの作成及び防災訓練等を実施していますか。
現状説明	全学（学生委員会）の方針にしたがって、行っている。 マニュアル作成は完了している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。 1年生を対象に危機管理研修を実施した。

達成度	A
改善課題	
根拠資料	①経済学部オリエンテーション資料 ②危機管理マニュアル ③経済学部安心安全マニュアル ④研修実施報告書
次年度の課題と改善の方策	

2020年度 経済学部 経済学科

中点検項目 2-6. 学生の意見・要望への対応

点検項目 ① 学修支援に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。

現状説明 ①学修支援に対する学生の意見は、全学の1年次生対象のアンケート、卒業生アンケート、また授業評価アンケートに反映している。しかし、学生の意見・要望を把握する基本的体制は学科では構築していない。現状では教養ゼミや基礎ゼミなどゼミを中心に担任がその都度吸い上げ、学科会議やFD研修等で議論している。

年度目標 学科での体制を構築し、分析するシステムを整備する。

年度報告 現状を維持した。一部、セレッソを利用したアンケート実施により実態の把握を行った。

達成度 A

改善課題

根拠資料 ①経済学科会議 資料
②経済学科FD研修報告書

次年度の課題と改善の方策

点検項目 ② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。

現状説明 ①学生担任、副担任、学科長、学部長が対応している。
②必要な場合には、心身の健康維持のために、カウンセリングを受けることを勧める。
③学生がカウンセリングを受けることを嫌う場合には、担任がカウンセリング担当者から助言を受ける。
④教員は全学及び経済学科のFDで役に立つ知識を得ている。
⑤心身の健康保持・増進のため、保健室・学生相談室を設置して職員が常駐している。
⑥安全・衛生管理は規定を作成し教職員に周知している。

年度目標 現状を維持

年度報告 課題を抱える学生へのきめ細やかな対応を行うよう、特に経験豊富な平田学部長補佐の指導も得つつ、学会教員が対応に当たった。

達成度 S

改善課題

根拠資料 ①大教センター運営委員会議事録 資料
②全学FD研修会資料
③経済学科FD研修報告書

次年度の課題と改善の方策

点検項目 ③ 学修環境に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制が整備されていますか。

現状説明 学修環境に対する学生の意見は、全学の1年次生対象のアンケート、授業アンケート、卒業生アンケートに反映している。
機会ある毎に教養ゼミ・基礎ゼミの中で意見・要望を収集している。これらの結果は、学科長を中心に教務委員等を含めた教員有志で取りまとめFD研修の資料としている。

年度目標 現状を維持

年度報告 現状を維持した。

達成度 A

改善課題

根拠資料 ①大教センター運営委員会議事録 資料
②授業評価アンケート結果報告書
③経済学科FD研修報告書

次年度の課題と改善の方策

2020年度 経済学部 経済学科

基準3. 教育課程

領域: 卒業認定、教育課程、学修成果

2020年度 経済学部 経済学科

中長期計画	<p>中長期計画は、これまでの2014～2016年度の「経済学部構想」に基づく。</p> <p>全学的には、大学学部教育における教育目標を示す「福山大学教育システム」の方針、この方針に基づいた学位授与方針がある。それに加えて、2014年度に新たに定めた、経済学部・学科の目的、ディプロマ・ポリシーそしてカリキュラム・ポリシーがある。2015年度にはカリキュラム・ポリシーが全学的に見直した。</p> <p>中目標としては、経済学部の目的や3つのポリシーの維持に努めることである。</p> <p>小目標としては、経済学部運営委員による中目標点検とする。</p>
-------	---

2020年度

経済学部 経済学科

中点検項目	3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定
点検項目	① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは、学内外に周知されていますか。
現状説明	ディプロマ・ポリシーは学生便覧、大学要覧やホームページにより学内外に周知してい
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2020年度学生便覧 25P ②経済学部ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/ ③2020年度大学要覧 115P ④経済学部パンフレット
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準(ルーブリック等の評価指標を含む)等の策定はどのように行われ、学内外に周知していますか。
現状説明	(学部に準ずる。) ①策定に関して、全学的には、教務委員会、大学教育センター、評議会等で検討している。学部内では、学部教授会、学科会議、学部教務委員会等で随時検証し適切な基準になるよう検証している。 ②周知に関して、学生便覧及びホームページに明記している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①経済学部ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/ ②2020年度教務の手引き 18P ③経済学部教授会議事録 ④2020年度 学生便覧 25P
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を公表し、厳正に適用されていますか。
現状説明	(学部に準ずる) ①基準の公表に関して学生便覧、ゼルコバで周知を図っている。 ②適用に関して、年度末に進級判定、卒業判定会議で基準を適応して審議している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度学生便覧 273P ②経済学部ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/ ③2020年度教務の手引き 18P
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

経済学部 経済学科

中点検項目	3-2. 教育課程及び教授方法
点検項目	① カリキュラム・ポリシーを策定し、学内外に周知していますか。
現状説明	(学部に準ずる。) ①策定であるが、執行部が原案を作成し学部教授会で承認したものを学部のポリシーとして運用している。 ②周知に関しては、学部HP、学生便覧、ゼルコバに掲載して周知徹底を図っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A

改善課題	
根拠資料	①2020年度学生便覧 25P ②経済学部ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの間に一貫性がありますか。
現状説明	カリキュラム・ポリシーを着実に達成できればディプロマ・ポリシーで描く像に最短かつ最速で到着できることを明示している。 学科のアセスメント・ポリシーが完成した。
年度目標	現状を維持。 学科のアセスメント・ポリシーも参考にして、一貫性が保証されていることを検証する。
年度報告	2016年度見直しを行っておりカリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの一貫性を保証している。3コースに最適な新カリキュラムを編成した。次年度より実施する。
達成度	A
改善課題	カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの一貫性に向けて適切性の検討や、カリキュラムマップの見直しを継続的に行う。
根拠資料	①2020年度学生便覧 25P ②経済学部ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を体系的に編成していますか。
現状説明	カリキュラム・ポリシーで具体的な科目群設置を述べ、教育課程における個々の科目は具体的にそのジャンル内の科目を設置している。
年度目標	現状の編成を維持すると同時に問題点があれば改善する。
年度報告	基本科目を確実に学修できるようカリキュラムの見直しを行った。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①経済学部カリキュラム改訂（第10回評議会提出資料）
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 教養教育は専門教育とともに十分に実施されていますか。
現状説明	教養科目は3群にわたり芸術とスポーツのE群を含む10単位を最低履修しなくてはならない。芸術とスポーツの群の科目の単位数は1単位科目がほとんどである。また、教養科目は十分に用意しており興味のある学生は利用できる環境にある。
年度目標	現状を維持
年度報告	全学的な方針の中で、現状の取り組みを継続した。次年度から教養教育の中でE群の必修化を選択科目に変更した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度学生便覧 29P ②経済学部ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教授方法を工夫・開発(ICTの活用を含む)し、効果的に実施していますか。
現状説明	①全学的なICT教育方針にしたがっている。 ②経済学部独自にブルームバーク、日経テレコム、日経FinancialQUESTなどを活用している。データベースを利用した授業課題、仮想取引システムを利用した金融教育などがある。 ③アクティブ・ラーニングのためにICTが不可欠な科目もあり、どのような授業形態で活用可能か検討している。 ④Cerezoの活用は広まっている。特に、遠隔授業でブレイクアウトルームを活用し、アク教授方法の工夫・開発をした教員がいればそれについての講義を依頼する。
年度目標	教授方法の工夫・開発をした教員がいればそれについての講義を依頼する。
年度報告	コロナ禍で、全学的に示された教育方針に基づいて実施した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①遠隔授業の準備・実施ガイドライン ②大学等における遠隔授業の実施に当たっての学生の通信環境への配慮等について（文科省）
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ ディプロマ・ポリシーと卒業判定の整合性を考えていますか。

現状説明	学科に設定されているディプロマ・ポリシーに示されている学修成果を達成するために、学部の必修科目、学科の必修科目、学科の選択必修科目を置いている。学生はこれにしたがって履修すれば、学修成果を体得できる。きわめて具体的であり、整合性はある。経済学部・学科の進級・卒業基準は学生便覧に明示している。適切性については教授会で議論し、可能な限りで卒業要件を守るようにしている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度 学生便覧 25P 273P ②学科教育プログラム自己点検・評価報告書 ③2020年度第28回経済学部教授会議事録（卒業判定資料）
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

経済学部 経済学科

中点検項目	3-3. 学修成果の点検・評価
点検項目	① 全学及び各学科等のアセスメント・ポリシーの活用も含め、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用をどのように検証していますか。
現状説明	①学修成果の目標については、カリキュラムマップ、学科の教育目標で示している。またシラバスにおいては、個々の科目における到達目標を記述した。 ②学修成果の評価方法に関しては、基本的に担当する個々の教員に委ねている。学生にはシラバスで評価方法を明示している。 ③アセスメント・ポリシーに基づいた授業評価、GPA分布などは、教員間において情報共有し意識づけしている。 ④アセスメント・ポリシーの達成度を検証し、新しいカリキュラム編成の参考にした。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①大学教育センターアセスメントポリシー資料 ②2020年度学科教育プログラム点検・評価報告書 ③卒論ルーブリック表
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックは、どのように実施されていますか。学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導等の改善につなげていますか。
現状説明	①シラバス点検を学科長と教務委員で実施している。ここでのフィードバックを改善に活かしている。 ②FD研修の中で学力低位の学生の学修改善策について検討し、原因と対策について情報の共有を行っている。 ③大教センターの授業評価アンケート等に基づき、講義内での学生へ口頭またはセレッソを通じてフィードバックを義務付けている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①授業評価アンケート報告書 ②2020年度学科教育プログラム点検・評価報告書 ③学科FD報告書
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

経済学部 経済学科

基準4. 教員・職員

領域:	教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援
------------	---------------------------------

2020年度

経済学部 経済学科

中長期計画	<p>中長期計画は、これまでの「2012年度、2013年度年度計画」と2014年度の「経済学部構想」に基づく。</p> <p>教育研究組織としての学部学科のありようは、2014年度からの新しい目的、新しいディプロマ・ポリシーにおいてすでに明らかにされている。これらにしたがって、学科に基本となる講義科目、それを担当する研究者を採用してきた。学部内でのFD研修や教員の研究しやすい環境づくりを検討する。</p> <p>中目標 2014年度からの新しい目的、新しいディプロマ・ポリシーを実現できる体制を構築・維持すること。</p> <p>小目標 基礎科目の知識を定着させ、重要専門教育科目の専任化を図り、コースの充実化と改革を促進すること。</p>
-------	--

2020年度

経済学部 経済学科

中点検項目	4-1. 教学マネジメントの機能性
点検項目	① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが確立され、それが発揮されていますか。当該部署の長は当該部署の教学マネジメントにおいて適切にリーダーシップを発揮していますか。
現状説明	①学長の指示する大方針に基づいて、個々の科目にまで至る経済学部・学科教育を実施している。 ②経済学部長、学科長は大学教育センターの方針に従って学部・学科教育を実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2020年度全学教授会議事録 ②2020年度経済学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 当該部署では、教職員間で権限・役割を適切に分散し、かつそれぞれの責任を明確化した教学マネジメントを実施していますか。
現状説明	①役割の分散化に関しては、教務委員、学生委員、就職委員などを設置して対応を図っている。 ②学科教員はそれぞれ全学的な委員会に属しており、学科内での役割に応じてイニシアティブを発揮している。また、特定の個人に役割が偏らないように、学部運営委員会にて調整し、担当者はそれぞれが委員としての職務を果たしている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2020年度経済学部諸委員会委員名簿
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 職員の配置と役割の明確化などにより、教学マネジメントの機能性を高めていますか。
現状説明	①職員は適正に配置されているが、人数が少ないことに加えて業務内容が多岐にわたるため、役割はあまり明確化されておらず、総合的にまた臨機応変に職務に当たっている。 ②教員は必要な教材費の請求、研究費の処理に関しては担当職員と連絡をとり効率的に事務処理を実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2020年度経済学部教授会議事録 ②2020年度経済学部諸委員会委員名簿
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

経済学部 経済学科

中点検項目	4-2. 教員の配置・職能開発等
点検項目	① 当該部署の教育目的及び教育課程に即した資質を有する教員を配置していますか。また、当該部署の適切な運営及び継続性を担保する構成(性別、年齢、職階等)となっていますか。

現状説明	<p>学科の教員数は設置基準に適合している。非常勤講師の力も借りて学科のディプロマ・ポリシーを実現できるカリキュラムを組んで実施できている。新規教員採用時には担当分野の研究業績を精査している。</p> <p>経済学科には14名の教員がいるものの、その中で経済学の基礎であるミクロ経済学・マクロ経済学を担当できるような標準的な経済学者は5名と少ない。</p> <p>教育目的の実現としては学科のDPに適合した卒業生を送り出せている。</p> <p>教員組織は学科のCPを高い水準で維持しようと試みている。</p> <p>長期ビジョン実現に向けたアクティブ・ラーニング導入に取り組む体制を維持している。</p> <p>年齢別構成は30代5名、40代2名、50代3名、60代3名、70代1名である。</p> <p>性別は女性の教員は2名と少ないので、女性を優先的に採用する方針ポジティブティブアクションを採用している。</p> <p>2020年度採用は教授（男性1名）・講師（男性1名）であった。しかし、金融経済学の教員採用を実現できなかった。</p>
年度目標	一般的な経済学者、女性教員の採用数を増加させる努力を継続する。
年度報告	<p>総合経済学コースでは、2名（教授と講師）の採用が決定し、2021年度から経済学科に加わる。</p> <p>金融経済コースで1名の教員採用が出来ず、コースの中心者を確保できなかった。</p>
達成度	B
改善課題	学年進行に伴う学生数増による教員の負担増の改善および新カリキュラム充実化と3コースの実質的強化にむけた人員の増加
根拠資料	<p>①2020年度経済学部人事計画</p> <p>②2020年度教員選考委員会報告書</p>
次年度の課題と改善の方策	新カリキュラムの推進と3コースの充実化のため金融経済学に秀でた経済学者、女性教員の採用数を増加させる。
点検項目	② 大学設置基準、教職課程等の資格養成機関に求められる教員数を確保していますか。
現状説明	<p>学科の教員数（14名）は設置基準数（12名）に適合しているが、20名の学生増により昨年度より負担が増加している。</p> <p>2021年度には、定年により1名の教授が退職予定。これに伴い、学部内からの教授昇任人事あるいは、外部からの新任教授または准教授人事が必要である。</p>
年度目標	人事を効果的に行う。
年度報告	<p>現状の取り組みを継続した。</p> <p>経済学科は2名の採用ができた。</p> <p>将来中心となる教員は確保できたが、金融経済学の予定教員1名が未達成となった。</p> <p>2020年度末に、1名の教授が国際経済学科に異動した。</p>
達成度	A
改善課題	経済学科の定員が20名増えるので、学科教員の数の増加が望ましい。
根拠資料	<p>①2020年度経済学部人事計画</p> <p>②2020年度教員選考委員会報告書</p>
次年度の課題と改善の方策	教員の負担増の改善と新カリキュラム実施による3コースの充実化のため学科教員の増加を要求する。
点検項目	③ FD(Faculty Development;教育内容・方法等の改善)をはじめとする教員の資質向上に向けた取り組みを行っていますか。
現状説明	全学実施のFDに積極的に参加するように要請しているので、学科教員は、学科だけでなく、全学、学部、大学院のFDに積極的に参加している。また経済学部においては経済学部研究会で教員の研究内容説明会を実施している。しかし、コロナ禍のため経済学研究会は中止した。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続したが、経済学研究会は、コロナ禍で実施できなかった。しかし、学科のFDは2回実施し、学科教員は積極的に参加した。
達成度	A
改善課題	<p>教員の研究時間は、各教員の判断で確保している。</p> <p>研究室の設備の整備については年度予算申請を通して、教育研究環境整備を図っている。</p> <p>委員会が多いこと、加えて新任教員を含む勤続年数の僅少教員が学科内にも多いことから、各教員の研究環境は厳しい状況にあるので改善する。</p>
根拠資料	<p>①経済学科 2020年度経済学科FD研修結果報告書</p> <p>②福山大学経済学部ホームページ</p>
次年度の課題と改善の方策	経済学研究会は日程調整を行い実施する。
2020年度	
経済学部 経済学科	
中点検項目	4-3. 職員の研修
点検項目	① SD(Staff Development;教職員の個々の職能開発)をはじめとする大学運営に関わる教職員の資質・能力向上と教職協働への取り組みを実施していますか。
現状説明	<p>(学部に準ずる。)</p> <p>職能開発面に関しては、経済学部運営委員会において、十分に本来の期待される機能が発揮できるような体制となるように、構成員の組み合わせ等を配慮して実施しているところ</p>

年度目標	現状を維持
年度報告	(学部基準に準ずる。) 現状の取り組みを継続した。 大学主催、学部主催(リスク管理、教育倫理)のFD, SD研修には全員参加を基本に取り組んだ。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①経済学部メール 経済学科メール ②学部教授会議事録 ③経済学部研修結果報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学運営の効率改善のために ICTの活用を推進していますか。
現状説明	①活用は推進できている。特に、メールによりファイルを配信することでほとんどの連絡を効率的に実施している。学生指導においても必要不可欠の手段となりつつある。 ②また、場合によってはメール会議などの利用により効率的に会議時間を活用している。 ③Zelkova、Cerezo、Office 365を活用している教員も増えつつある。Karinについては、まだ十分に活用できていない。
年度目標	改善の努力を継続する。
年度報告	コロナ禍で、学科会議・学科FD等において従来の見直しを適切に行い効率改善を図った。 Office365を活用し、SharePointの使用など、ICTの活用は広まっている。 セレッソは学科教員の意見交換やアンケート実施等により、効率的に活用した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①ICTサービス関連メール ②2020年度経済学部教授会議事録 ③Office365(経済学科教員 Excel, Word, SharePoint) 共有データ
次年度の課題と改善の方策	①教員の予算執行の見える化(残額確認等)を希望する。 ②事務連絡作業におけるデジタル化を推進する。

2020年度

経済学部 経済学科

中点検項目	4-4. 研究支援
点検項目	① 研究に専念する時間の確保、研究室の施設設備の整備等の研究環境を適切に管理していますか。
現状説明	専任教員は20～25㎡の個人研究室を確保し管理している。研究時間は、各教員がそれぞれの判断で確保している。 研究費は、教員評価に応じてランク付けしている。また、各自でそのための予算を確保するよう努めている。 研究日はあるが、公務などでほとんど研究時間が取れない教員もいる。この自己点検評価の過去の結果でも、全学的にこの問題があることが明らかにされている。
年度目標	研究時間の確保を推進する。
年度報告	現状の維持をしているが、コロナ禍のため出勤制限や遠隔授業の設備準備に経費がかかり、研究のための環境整備が不十分で、十分な研究成果をあげることが厳しかった。
達成度	B
改善課題	
根拠資料	①研究関連ガイドブック ②Cerezo勤務時間確認
次年度の課題と改善の方策	公務を効率的に行い、研究時間を確保する。
点検項目	② 研究倫理の確立(規則の整備や検査等)と厳正な運用が行われていますか。
現状説明	①福山大学学術研究倫理審査委員会があり、規定も整備している。学科はこれに従っている。 ②加えて、経済学研究会が編集している『福山大学経済学論集』は投稿規定があり、その中に剽窃等に関する倫理規定がある。これらを周知し、適切に運営している。 ③福山大学学術研究倫理審査委員会により、適切に運営している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①『福山大学経済学論集』投稿規定 ②2020年度福山大学コンプライアンス教育(研究関連ガイドブック)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 研究活動への資源の配分や運用は適正に行われていますか。

現状説明	(学部に準ずる。) ①資源配分に関しては、個々の教員への研究時間は適切な範囲で確保している。資金面では科研費申請と外部資金申請で研究費を確保可能である。 ②運用の適正性に関しては、特定の個人に負担が集中しないように運営委員会で慎重に議論している。
年度目標	研究時間の確保と外部資金等による研究予算の確保
年度報告	研究時間の確保は不十分である。学会参加等による情報や資料収集が不可欠であるが、研究費と交通費の融通が無いため研究活動が制限されている。
達成度	B
改善課題	
根拠資料	①科研費申請のデータ ②研究関連ガイドブック
次年度の課題と改善の方策	公務の効率化と外部資金等による研究予算の確保
点検項目	④ 公的研究費の運営・管理(ガイドライン等)が整備され、周知されていますか。
現状説明	①科研費については、教員が管理せず、事務方が管理するように定めている。 ②科研費のコンプライアンスについて、教員全員が参加してFD活動があり、周知を図っている。 福山大学「研究関連ガイドブック」があり、活用している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続し、経済学科の教員は、科研費コンプライアンスのテストを受けた。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2020年度福山大学コンプライアンス教育（研究関連ガイドブック） ②研修結果報告書
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

経済学部 経済学科

基準6. 内部質保証**領域: 組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル**

2020年度

経済学部 経済学科

中長期計画	(学部に準ずる。) 中長期計画は、これまでの「2012年度、2013年度年度計画」と2014年度の「経済学部構想」に基づく。 教育内容や教育プロセスの設計は、2013年度に提示した学部の新しいミッション、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーに基づき、そして、それらを具体化した新カリキュラムに従って、計画する。 具体的には、学部横断的な必修科目の設定、学科に固有の選択必修科目の設定、地域に根ざした経済・経営教育をしようとする備後経済コースの設計、そして、金融市場を教育の核とする金融経済コースの設計等によっている。これら設計の遂行が、目的通りに行っているかについて、自己点検と評価をし、PDCAサイクルの確立を目指す。さらに、設計自体に適宜、必要な補正を加えていく。
-------	---

2020年度

経済学部 経済学科

中点検項目	6-1. 内部質保証の組織体制
点検項目	① 内部質保証のための組織を整備し、責任体制を確立していますか。
現状説明	システム整備に関して、①個々の教員の評価基準をシラバスに記載し、その通りに運用している。 ②進級基準及び卒業基準を定め基準を遵守するように運営している。 ③卒業論文を重要科目に位置づけ、要旨集の公開、内容報告公開を実施している。 責任体制について、シラバスに関しては教務委員及び学科長、進級卒業判定は学部教授会、卒業論文は卒論委員会を設置して対応している。 ④自己点検評価については、全学の基準に従い、計画、実施、点検、修正を行い、責任体制を確立している。また内部質保証をさらに高めるために、5年ごとに外部評価委員会を実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	(学部に準ずる。) 現状の取り組みを継続した。 運営委員会は、昨年までの体制を大幅に見直し、毎週月曜日を定期として学科長以上、事務長を加えた6名体制としている。運営委員会は、報告だけでなく学部学科が抱える課題をテーマにして全員が議論を深め決定している。
達成度	S
改善課題	

根拠資料	①福山大学自己点検評価規程 ②福山大学経済学部自己点検評価委員会細則 ③2020年度経済学部運営委員会資料
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

経済学部 経済学科

中点検項目	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価
-------	-----------------------

点検項目	① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価が実施され、その結果を当該部署の教職員が共有していますか。
------	---

現状説明	<p>経済学部では、卒業論文の質を組織的に維持するために、卒論委員会を設置していて、学科はそれに準じている。卒論委員会は卒論提出のルールを設定しており、</p> <p>①卒論計画書の提出、 ②剽窃等の禁止、 ③内容的に不備がある論文の選定及び再提出、 を定めている。</p> <p>さらに卒業論文の要旨を集め、要旨集として発行し、高校等に配布をし、内部質保証に努めている。</p> <p>学部長、学科長、研究科長などから成る運営委員会が、教育体制、学修支援体制の構築などをテーマに議論を重ねている。</p> <p>また、学部教授会や学科会議では、節目節目で主要な取り組み、結果を教員に周知している。また、予算要求においては自己点検項目のかかわりを徹底するよう意識の共有をしている。</p>
------	--

年度目標	現状を維持
------	-------

年度報告	現状の取り組みを継続した。
------	---------------

達成度	S
-----	---

改善課題	
------	--

根拠資料	①2020年度経済学部運営委員会資料 ②2020年度 卒業論文要旨集
------	---------------------------------------

次年度の課題と改善の方策	
--------------	--

点検項目	② IR(Institutional Research)等を活用した十分な調査・データの収集と分析を行っていますか。また、その結果を改善に活かしていますか。
------	--

現状説明	<p>入学時の成績と入学後の成績をつきあわせる作業は個人情報の問題がある。両者が同時に手に入らない事情がある。</p> <p>IRデータについては学科単独での分析を行っていないが、教員が個人的に研究調査を行い報告している。</p>
------	---

年度目標	アクセスできるIR室の報告書が出たら、活用する。また、授業評価アンケートは各教員が分析し、授業改善を行っているが、全体的にIRデータの活用は、組織的な取り組みになっていない。教授会や学科会議などで学生指導、授業改善等に向けて活用するよう要請する。
------	---

年度報告	<p>(一部学部準ずる。)</p> <p>年度始め、定期試験時などの学部教授会で、学部長が学生指導、授業改善等について全教員へ要請している。入試広報室から収集した情報から、入試対策を傾向分析し活用している。また退学留年等におけるデータ分析を実施し、学科のFD研修の資料にしている。</p>
------	--

達成度	A
-----	---

改善課題	学生指導・授業改善に向けたIRの活用・分析
------	-----------------------

根拠資料	①経済学科FD研修報告書 ②2020年度入学状況調 ③2020年度入試種別合格者手続き等資料 ④2020年度第1回経済学部教授会議事録
------	--

次年度の課題と改善の方策	
--------------	--

2020年度

経済学部 経済学科

中点検項目	6-3. 内部質保証の機能性
-------	----------------

点検項目	① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組み(システム)をどのように確立し、その機能性を検証していますか。
------	--

現状説明	PDCAにつながる教員評価、授業評価アンケート、FD活動などを通じて、機能的なPDCAサイクルの仕組みを維持している。
------	---

年度目標	現状を維持
------	-------

年度報告	現状を維持した。
------	----------

達成度	A
-----	---

改善課題	
------	--

根拠資料	①経済学科 教員評価 ②2020年度 授業評価アンケート結果報告書
------	--------------------------------------

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教職員のコンプライアンスを確立するための体制を整備していますか。
現状説明	(学部基準) 教員の法令遵守については、全学的な方針にしたがっている。人権の尊重については、教授会等で教員に要請している。研究に関しては、経済学研究会が発行する紀要『経済学論集』には投稿規定があり、倫理規定を定めている。投稿規定は2012年度に教授会で審議・議論し、制定した。コンプライアンスにかかわる学部FDは定期的実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学研究関連ガイドブック (2020年4月改定) ②経済学部モニタリング調査 (年2回) ③研修結果報告書
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

経済学部 経済学科

基準7. 福山大学ブランディング戦略**領域: 「福山大学ブランディング戦略」の点検・評価 (本学独自基準)**

2020年度

経済学部 経済学科

中長期計画	(学部基準) 備後地域にある大学として、地域とともに歩み、地域社会の発展と安定並びに地域への人材供給に寄与することを本学のミッションとする。本学は、教育理念の一つである「地域社会の発展への貢献」を行うために、産業界及び地域自治体との連携(産官学)を進めている。経済学部においては、ブランディング事業運営委員会を解消して、新年度から「備後圏域経済・文化研究センター」を設立した。備後地方は、瀬戸内地方の中心にある。ここに住む人々の暮らしは、恵まれた里山里海にあり自然と共生している。今日の備後地方は、昭和39(1964)年に備後工業整備特別地域に指定されて以来、製鉄業、機械工業、繊維産業などが飛躍的に発展してきた。こうした中で里山里海に関連した農林水産業等も独自に発展してきた。経済学部では、備後圏域の経済に関わる研究、備後圏域を踏まえた国際経済、備後圏域の活性化に関する研究を進めていく。研究プロジェクトは、共通のテーマである里山里海学に関連したヒトとモノの動きを中心とした研究を進める。
-------	--

2020年度

経済学部 経済学科

中点検項目	7-1. 福山大学ブランディング戦略の推進
点検項目	① 福山大学ブランディング戦略 (ver. 2018) の概略について当該部署の学生及び教職員への周知を進めていますか。
現状説明	(学部基準) ブランディング戦略については、年度初めの学部教授会で周知している。備後経済研究会は、研究会、講演会の開催時に教職員へ周知している。また関心のある学生・院生・社会人についても参加を呼び掛けている。 また今年度の研究プロジェクトは次のとおりである。 ①備後地区の里山里海資源が、内海町、広瀬町の地方再生に向けた具体的役割を検証しつつ、他の取組みを事例に可能性を探る。 ②海外市場開拓については里山里海の特産品の海外市場へのアクセスを巡る問題点、解決策を中心に考察する。 ③備後地域における地域資源の活用と当地域の企業経営の特長を探る。 ④備後地域の多くの企業は、環境保全に配慮しつつ、繊維、機械、製鉄など全国有数の生産地を形成してきた。環境保全と発展の具体的な取組みを探る。
年度目標	現状を継続
年度報告	(学部基準) 経済学部は、ブランディング事業運営委員会を中心に、里山・里海資源に基づく備後地域の産業競争力強化と雇用力増進との好循環の創出可能性について取り組んでいる。例年通り年度初めの学部教授会で全教員へ周知徹底した。今年度においては、効果が期待できる備後経済研究会は新型コロナウイルス感染防止の観点から開催ができなかった。一方昨年度実施した経済学部外部評価報告書を発行して産業界等関係団体へ送付した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①第1回学部教授会議事録 ②福山大学経済学部ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp/research/ ③2019年度経済学部外部評価報告書 (2020年度発行)

次年度の課題と改善の方策	学生と教員の割合（S/T比）が学内最大の学科であり、教員の余裕がないため教員増を行い、教員の負担減を実施しブランディング事業に対する関心を向上させる。
点検項目	② 福山大学はブランディングを「広告ではなく、社会に貢献する観点から他にはない固有の魅力を引き出して他との差別化を図り、社会から選ばれること」と捉えています。この観点からブランディングにどのように取り組んでいますか。
現状説明	（学部基準） 備後地方は、全国的に多様で有数の産業集積地である。これらを踏まえて、地元商工会議所の運営・発展に参加している。国際経済学科ではトップ10カリキュラムを進めグローバル人材育成を目標に掲げて取り組んでいる。税務会計学科では備後経済コースを設置し、地域調査、備後経済論等を通して、備後地域企業にとって有用な人材育成に取り組んでいる。地域調査では、協力企業と協働事業協定書を締結している。また備後経済研究会は、業界・企業に対して産業界と定期的に連携した研究を実践している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。 コロナ禍で備後経済研究会は開催できなかったが、遠隔授業、また海外研修（インドネシア）ではリモートによるバーチャル体験を行うなどして大きな成果を上げた。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学経済学部ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp/ec/ ②学長室ブログ https://www.fukuyama-u.ac.jp/blog/ 主なもの 2020.8.6 早川教授「コロナ禍における福山市経済の動向ほか」情報提供 2020.8.12 「地域調査」地元企業と連携した新たな授業形式を導入 2021.2.15 張楓教授 中小企業研究奨励賞（商工総合研究所）
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 福山大学ブランディング戦略では「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成すること」を方針としています。当該部署は、この方針の実現にどのように取り組んでいますか。
現状説明	（学部基準） 経済学部では、未来創造人を育成することを目指して産学官民連携を様々な形で取り組んでいる。国際社会に繋がるグローバル人材育成として経済学部は、トップ10カリキュラムをはじめ、トビタテ、フィリピン、インドネシアなど各種海外研修を実施している。経済学科では、アメリカ研修を実施している。これらは、「未来創造人」を視野にしてすべて産官民と連携した事業となっている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取り組みを継続した。 4大学連携講座は、福山市の財政的な事情から実施できなかった。また、コロナ禍で海外研修は出来なかった。
達成度	B
改善課題	
根拠資料	①福山大学ホームページ 研究・産学連携 https://www.fukuyama-u.ac.jp/research/ ②学長室ブログ https://www.fukuyama-u.ac.jp/blog/ ③2019年度経済学部外部評価報告書（2020年度発行）
次年度の課題と改善の方策	備後地域の発展に必要な国際的条件を検証する。
点検項目	④ 福山大学ブランディング戦略では、福山大学が備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献することを目標としています。この目標の実現に向けて、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	（学部基準） 地元産業界を代表する福山商工会議所と月刊誌への記事掲載、イベント共催、協議会参加などで積極的に連携している。また研究プロジェクトに地域再生をテーマにして、里山・里海学では、観光、流通、商工振興など備後地域の特性を生かす取り組みを行っている。備後経済研究会は継続して産学連携を進めており、業界、市民へ成果を還元している。シンポジウムなどのイベントでは参加者に対してアンケートを実施している。
年度目標	里山里海資源が広瀬町、内海町などでどのように生かされているか検証し、問題点を探
年度報告	コロナ禍の産業界では積極的な展開がなされていない。地域創生においても広瀬、内海町においても各種行事がすべて中止され、地域に詳しい方との接触も出来ず予定の取組は出来なかった。一方、今後につながる人的な関係は絶やさず取り組んだ。
達成度	A
改善課題	

根拠資料	①2019年度経済学部外部評価報告書（2020年度発行） ②『備後福山の社会経済史-地域がつくる産業・産業がつくる地域-』 日本経済評論社 経済学部教授 張 楓 ③福山大学経済学論集第45巻 2021年3月 グローバル企業の経営理念-備後企業との比較分析- 経済学部講師 大城朝子
次年度の課題と改善の方策	学生と教員の割合（S/T比）が学内最大の学科であり、教員の余裕がないため教員増を行い、教員の負担減を実施しブランディング事業に対する関心を向上させる。
点検項目	⑤ 福山大学ブランディング戦略では、建学の理念に基づき、「地域の中核となる幅広い職業人」を、育成する人材像としています。そのために、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	（学部に準ずる） 福山商工会議所月刊誌「商工ふくやま」（発行5700部）に、福山大学経済学部の教育目的の一つに「知行合一を基底にした全人教育」を共通テーマにした記事を1年間掲載している。経済学部では常に全人教育を念頭においた取り組みを進めている。 ①備後企業の取り組みの実態を理解させ、就職の対象として考える機会を与えている。このためトップ10、地域調査、備後経済論などは、グローバル人材育成、地域特性を踏まえた人材育成の取り組みを行っている。 ②経済学部の卒業生の多くは、2/3が地元で就職し活躍している。 ③資格検定の実績向上に努めている。 ③経済学部の卒業生の多くは、2/3が地元で就職し活躍している。 企業懇談会等をととして、また資格検定の合格者数等で検証している。
年度目標	就職した卒業生の貢献度等の実態を検証し、問題点を明確化する。 資格検定の実績を上げる。
年度報告	現状の取り組みを継続した。コロナ禍で一部予定どおりでなかった（海外研修）が概ね目的達成した。また、備後地域は全国的にも有数な産業集積地である。経済学科教員は、福山商工会議所の経営改善委員会責任者として参加している。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2019年度経済学部外部評価報告書（2020年度発行） ②大学要覧（国際経済学科ページ）
次年度の課題と改善の方策	学生と教員の割合（S/T比）が学内最大の学科であり、教員の余裕がないため教員増を行い、教員の負担減を実施しブランディング事業に対する関心を向上させる。
点検項目	⑥ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「備後地域との密な連携のもとに進める教育研究」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	（学部に準ずる） ①訪日外国人客の増加、②里山・里海の経済をグローバル経済につなげていく、③市場調査、④食品産業の実態調査、また⑤内海町などの里山里海の資源の地方再生に向けた今後の可能性を探ることにしている。 備後経済研究会は、個別の企業・個別業種のデータを整備し、データベース化しながら事例分析を行うことにしている。 上記のことを、主要には大学ホームページにより周知を行い、行政関係、企業経営者、一般市民などが参加している。備後経済研究会の参加者は平均15名で、成果が検証できると判断している。
年度目標	成果を検証し、問題点を明確化する。
年度報告	コロナ禍で従来行っていた現地調査を伴う取り組みはできなかった。その他については現状の取り組みを継続した。また備後圏域経済・文化研究センターを設置し地域連携を積極的に進めた。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2019年度経済学部外部評価報告書（2020年度発行） ②『備後福山の社会経済史-地域がつくる産業・産業がつくる地域-』 日本経済評論社 経済学部教授 張 楓 ③福山大学経済学論集第45巻 2021年3月 グローバル企業の経営理念-備後企業との比較分析- 経済学部講師 大城朝子
次年度の課題と改善の方策	学生と教員の割合（S/T比）が学内最大の学科であり、教員の余裕がないため教員増を行い、教員の負担減を実施しブランディング事業に対する関心を向上させる。
点検項目	⑦ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「学問にのみ偏重しない全人教育」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。

現状説明	(学部基準) 経済学部は、学問にのみ偏重しない全人教育として、企業・行政連携での学びを通し、行動の重要性が考えられるような取組みを重視している。 具体的な例として、昨年度福山商工会議所の月刊誌「商工ふくやま」(発行 5,700部)に、経済学部を紹介している。この中で「知行合一を基底にした全人教育」を共通テーマとして人材育成、地域連携などの魅力を発信し、企業経営者などから高く評価されている。またビジネス検定、日商簿記など資格検定の実績向上に取り組んでいる。 他においても機会があれば引き続き取り組む。里山・里海学、研究会においては、観光、流通、消費、また産業界と密接に関連したテーマであり、参加者の意見、アンケート等を通して検証している。
年度目標	成果を検証し、問題点を明確化する。 資格検定の実績を上げる。
年度報告	経済学部はビジネス能力検定を指標に位置付けている。例年2回の試験であったが、今年度はコロナ禍で1回だけに実施であった。全国的には受験生は45%減であったが経済学部は、14%減に留まり2級の合格者は53名から67名へ増加した。また就職内定率は、現時点で100%と前年並みを確保している。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2020年度参事会(2月26日)資料 ②就職課就職率データ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑨ 福山ブランディング戦略は、これからも進化させて、さらに発展させる必要があります。ブランディング戦略のブラッシュアップにどのように取り組んでいますか。
現状説明	(学部基準) 2019年度から従来の研究テーマの見直しを行っている。見直しは里山・里海の特徴を一層活かすことから内海町・広瀬町の地域再生、観光資源の発掘と情報発信、また農林水産資源調査などを研究プロジェクトに加えた。これは経済学部として里山里海に関連した地域連携を進めることから重要である。学部全体が取り組む体制となり、また身近なテーマだけに地域連携の実効性が上がると期待している。
年度目標	成果を検証し、問題点を明確化する。また2020年度に備後圏域経済・文化研究センターを設立したので、教員の関心を高め計画的に取り組む。
年度報告	備後圏域経済・文化研究センターが設立され、学部教員に対して主旨を確認し理解を深め
達成度	B
改善課題	
根拠資料	①2020年度第1回経済学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	学生と教員の割合(S/T比)が学内最大の学科であり、教員の余裕がないため教員増を行い、教員の負担減を実施しブランディング事業に対する関心を向上させる。
2020年度 経済学部 経済学科	
中点検項目	7-2. 福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクト
点検項目	① 当該部署では全学的に展開しているプロジェクト研究の「瀬戸内の里山・里海学」にどのように取り組んでいますか。
現状説明	(学部基準) 学部内でプロジェクトチームを作成している。メンバーは張楓を中心に、尾田、平田、佐藤、劉、大城、合計で6名である。研究は、地方再生、中国市場調査などいずれも里山・里海に関連した4件である。 予算要求、予算執行では、学部事務室が円滑に推進できるよう支援している。
年度目標	現状を維持。2020年度から備後圏域経済・文化センターを設立したので、学部教員が関心を持ち参加する意識を一層高める。
年度報告	備後圏域経済・文化研究センターが設立され、学部全教員に対して主旨を確認し理解を深めた。 一方研究プロジェクトは、いずれも現地調査を伴うものでコロナ禍で全体的に取り組みが縮小した。
達成度	B
改善課題	福山大学ブランディング研究への関心の向上
根拠資料	①2020年度第1回経済学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	年次計画で実施しているので偉業が繰り延べになる。 最終年度となる地域調査は、個人研究として継続する。
点検項目	② 福山大学ブランディング研究に必要な内部資金及び外部資金をどのように獲得していますか。
現状説明	(学部基準) 外部資金獲得に向けて公益財団法人広島産業振興機構などと協議したが、事業期間は単年度であることなどから不調に終わった。引き続き他の資金獲得に向けて努力する。 現在では、一般財団法人義倉と資金獲得に向けて協議をしている。
年度目標	現在の努力を継続する。効率的な執行に努め、外部資金獲得に一層の努力をする。

年度報告	現状の取り組みを継続した。外部資金は獲得できなかったが、内部資金については出版助成（800千円）を獲得できた。
達成度	A
改善課題	福山大学ブランディング研究への関心の向上
根拠資料	①2020年度福山大学出版助成 『備後福山の社会経済史-地域がつくる産業・産業がつくる地域-』経済学部教授 張 楓
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑧ 福山大学ブランディング研究の成果をどのように社会に発表していますか。
現状説明	(学部に準ずる) 中国市場調査は、研究活動をふまえて大学院の公開ゼミナール、産学連携の成果発表、公開講座での発表を行っている。企業調査では、『福山市史』の編纂に携わり、また商工会議所の定例役員会で講和するなど発表している。その他については、計画の途中であり発表の段階ではない。 備後経済研究会では、例年4回の開催を通して成果の発表を行政関係者、一般市民、経営者、本学学生などに広く行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状の取組を継続するよう努めたが、コロナ禍で研究プロジェクト、備後経済研究会など一部について実施できなかった。こうした中で備後福山における多様な企業な発展、経営分析について発刊するなど社会に対して研究の成果を上げた。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①『備後福山の社会経済史-地域がつくる産業・産業がつくる地域-』 日本経済評論社 経済学部教授 張 楓 ②福山大学経済学論集第45巻 2021年3月 グローバル企業の経営理念-備後企業との比較分析- 経済学部講師 大城朝子 ③「備後企業の経営理念に関する実態調査」 研究ノート 2020年12月28日 大城朝子
次年度の課題と改善の方策	関心のある研究者の増加を図る。